

羅 針 盤					
評価対象	評価項目	学校の 自己評価	学校関係 者評価	学校関係者よりいただいたご意見	改善策
I 保護者との連携	1 学年・学級便り等で、学校や児童の様子を保護者に伝え、理解を得ていますか。	A	A	・学校通信「みのり」で保育園や公民館、地域の方も学校の様子がよく分かる。 ・コロナの影響で休校になった時でも学校だより「みのり」で稲の状況報告やコミュニティスクールの現状を詳細に伝えていた。	○レイアウトを考えたり、高齢の方にも読みやすいように文字を大きくしたりして、学校の様子を詳しく伝えていきます。
	2 学校は保護者が学校を理解したり、協力したりしやすい環境を作っていますか。	A	A	・事前に保護者に話し合いたいことをアンケートを取って決めたり、テーマを決めたりして、グループで話し合うと気軽に意見が出せる。それを全体で発表しあう。	○事前に懇談会で話し合う内容を伝えておいたり、話し合いの形態を工夫したりして、保護者にとっても学校にとってもためになる懇談会を目指します。
	3 保護者は、学校に連絡や相談がしやすいと思っていますか。	A	A		○児童の改善すべき点については躊躇なく家庭に伝えるようにするとともに、保護者が相談しやすい関係を築くようにします。
II 確かな学力	4 子供は、授業が分かり、満足感や達成感を味わっていますか。	A	A	・見学した授業ではよく取り組んでいると思います。 ・学年が上がるにしたがって個人差が大きくなるので、個に応じた指導はとても大切。わかる喜びが味わえるよう今後も授業の工夫が大切。 ・コロナのため授業がおくれているのは理解できますが少し詰め込みすぎの様に感じます。もう少しゆとりをもって良いと思います。	○スモールステップで授業を行いつつ、理解が不十分な児童には個別に補充指導をしていきます。
	5 子供に、教科などの基礎・基本が確実に身に付いていますか。	A	B	・昨年度、学習支援に参加した時、児童の理解が不十分な感じがした。個別支援がさらに必要ではないか。 ・研修を充実させてください。	○問題の解き方についても授業や補充指導の中で行っていきます。
	6 児童は進んで学習したり読書したりする習慣が身に付いていますか。	B	B	・最近、社会がデジタル化に変化していく中で、文字を使用する頻度が少なくなった。思考力の基礎は言葉の豊かさであり、その中でも文字の持つ力は思考をさらに深めるものと思われる。幼少の頃より読書を習慣づけられるよう指導してほしい。 ・チャレンジ100冊の取り組みはよい。 ・土日の宿題を多めにしているのが、平日は少なめにしてもらえるとありがたいです。 ・コロナの影響で学習時間が削られてしまったので仕方がないが、宿題が少し多いのではと感じる。もう少しゆとりをもって宿題より自主学習や体力づくりの時間を家庭で持たせられるとよい。	○授業と関連した本を紹介したり、読書に関する自主学習を提示したりします。 ○家庭学習集中期間が始まった次の日に各自が取り組んだ物を机の上に出させ、よさを共有したり、取り組む内容に悩んでいる児童のお手本となるようにします。また、授業の中でも今後も自主学習すべき内容を紹介していきます。 ○自主学習の学習時間をチェックし、必要に応じて個別支援をしていきます。 ○集中期間が終わったらふり返りをし、励ましや賞賛の言葉をかけるようにします。また、日常的に家庭学習をがんばっている児童を紹介しします。
III 豊かな心	7 児童は進んであいさつしたり、時と場合をわきまえた行動をしたりすることができていますか。	A	A	・来校した時に進んで挨拶をしてもらっているのが気持ちが良い。良い習慣がついている。 ・交通指導をしている保護者が挨拶をしても返さない児童が時々いる。	○学級指導や道徳教育において、あいさつの大切さや金・銀・銅のあいさつについてクラスで再確認します。また、意識的にあいさつを行っている児童がいたら、褒めたり、紹介したりします。 ○児童会でポスターを作ったり、放送で呼びかけたりします。
		A	A	・言葉遣いは様々なTPOによって使い分けられるよう指導してほしい。 ・「まなびいクラブ」に参加している児童や公民館利用児童は正しい言葉遣いをしている。	○国語や道徳、学活において、言葉の使い方について指導していきます。 ○学活などの時間にソーシャルスキルトレーニングを踏まえながら繰り返し指導をしていきます。
	8 児童は相手の立場や気持ちを考えて、人に親切にしていますか。	A	A		○学活などの時間に「よいところみつけ」のような一人一人のよさを認め合う学習を行います。
	9 学校はいじめの早期発見、早期対応に努め、児童の間に温かな人間関係を育てていますか。	A	A	・コロナの影響で学校を休みがちな子供がいると聞いている。ケアをしてほしい。	○児童同士の関係作りを行い、一人一人が認められる温かい学級作りを行います。
	10 児童は、学校のきまりや約束を守って生活していますか。	A	A	・地域においてごみの散乱を見かける。小さいころからのモラルを確立できるよう指導してほしい。	○各学級での指導はもちろん、朝会の時などにきまりについて全校で確認していきます。
IV 健康・体力	11 児童は食事や睡眠の意味と役割を理解し、規則正しい生活をしていますか。	A	A	・学童期の生活習慣の定着は重要。	○早寝早起きの大切さを学年便りや学級便りで繰り返し啓発していきます。
	12 学校は児童の体力向上に努めていますか。	B	B	・学校以外での運動をもっと推進してもよいと思う。	○子どもののびを認め、励ましながら、意欲を継続させていきます。 ○リズム体操を継続して行っていくとともに、体育集会で楽しく手軽にできる運動を紹介し、児童の運動に対する意欲を高めていきます。
V 安全確保・施設設備	13 学校は学校施設の安全管理を徹底していますか。	A	A		○現行の避難訓練を改善を図りながら、計画的に安全指導を行います。
	14 学校は、児童の安全を守るために、対策を講じていますか。	A	A	・ハッピーネットワークを活用した防犯、交通安全対策など、地域の協力体制がとれている。 ・渡瀬見守り隊の充実を図るため総会の開催、隊員の確保に努めている。 ・地域・保護者が協力して通学路の安全の確保に取り組んでおり、道路が細いのに交通量がとても多くて非常に危険な場所があります。	○学活などの時間で、正しい通学路の歩き方など確認をして、安全意識を高めていきます。
VI 進路・生き方	15 児童が自らの将来の夢や希望をもち、将来のことを考える機会を設けていますか。	A	A		○道徳や学活、総合の時間を活用し、将来について考えたことを学年通信などで、家庭に情報を発信したり家庭で話し合う呼びかけをしていきます。
VII 組織運営	34 教育活動の必要な場面で、地域の教育力を効果的に活用していますか。	B	B	・地域にまだまだ残るマンパワーをできるだけ活用することで世代を超えたコミュニケーションが生まれてくると思う。 ・地域人材集めはなかなか大変。いろいろなところから情報を集めうまく活用してほしい。 ・地域人材を活用する際、事前の打ち合わせで授業のねらい、児童の実態など十分に話し合うことが大切。(どうしても地域の方はたくさんの方を伝えて話しすぎてしまい児童に考えさせる場面でも一方的に話してしまうので) ・コミュニティスクールが発足し、地域とのつながりが一段と深まっていくことが期待される。世代間交流や保育園児と小学生のつながりを深め、渡瀬の子を地域で育てていきたい。 ・コミュニティスクールの充実に向けて、学校と地域の連携をさらに強化する必要がある。その方法の一つとして、来年度予定している防災訓練がよい機会。そのためには、九小がそれにどのように参加するのかを今から考える必要あり。	○コミュニティスクール関連年計を早期に作成し、全教員に配布、年計にも転記していきます。 ○地域人材を活用する場面を年間を通して設定します。

(そのほか、このようなありがたいお言葉もいただきました)
 ・校長の指導の下、いろいろな工夫が学校教育の場面でみられる。廊下や階段の掲示物もとても良い。読み聞かせや昨年度の学習支援で九小を訪れた時、どのクラスも子供たちが落ち着いた態度で取り組んでいると感心した。読み聞かせの時、担当するクラスの児童が迎えに来たり送りに来たりする、その細やかな指導に関心した。九小は地域とともに子どもたちを育てる素晴らしい学校。米作り、カレー会食等、九小独自の活動はとても大変かと思うが、我が子は卒業して20年たった今も忘れられない良い思い出だ。よき伝統をさらに継続してほしい。